

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1459号 1998年10月02日(金)

## 《 ugly and shaky 》

日本では10月1日は「衣替えの日」です。しかし今年の場合、世界経済はこの日を ugly で shaky な方向への「衣替えの日」としたようです。すなわち、「おぞましい」、そして「危険な方向」への。少なくとも当面は、です。週末に開かれる G7 は、久しぶりに本当の意味での先進諸国のリーダーシップを問われる場となるでしょう。

世界的な市場の ugly さは、株式市場や債券市場を見れば十分です。株は世界の主要市場で軒並み下げた。日本の昨日の下げ幅はパーセントにして 1.56 % と小さく、他のアジア市場も全般（中国、香港など一部市場の指数は上昇）の下げ幅は小さかった。しかし、ヨーロッパ市場の下げ幅はきつかった。

日本の新聞にあまり取り上げられないので10月1日の欧州主要市場の動向を見ると

Belgium	Bel-20	2829.67	- 4.38%
Britain	FT-SE 100	4908.20	- 3.08%
France	CAC 40	3038.01	- 5.00%
Germany	DAX	4226.49	- 5.54%
Italy	MIBtel	17879.00	- 4.69%
Netherlands	ANP-CBS	895.97	- 4.09%
Spain	General	644.82	- 6.24%
Sweden	Affaersvaerlden	2781.08	- 3.03%
Switzerland	Swiss Market	5486.00	- 4.76%

となっている。こえはどう見ても急落であり、一方朝からのニュースで伝えられているように、ニューヨークの株価は9月末日の237ドル強の下げ（ダウで）に加えて、10月最初の取引（1日）で210ドル09セント下げて、7632ドル53セントとなった。一時7500ドル台も記録。2日間では450ドル近い下げである。この裏返しで、債券相場は急騰。指標30年債の利回りは引けで4.88%まで低下した。

世界の株で上げたのは、南アフリカ市場の All Gold くらいで、この指数は約7%上昇した。しかし、南アフリカの株価が世界経済を支えるに十分なものであるわけではない。世界

的な株安の背景は列挙すれば以下の通りです。

ドイツが予想されたこととは言え、政策金利を据え置いた  
米連邦準備制度理事会の利下げが 0.25%にとどまって一部市場参加者の失望を  
買った

IMF が来年の世界経済のリセッション入りの可能性を指摘した

Long-Term Capital Management 以外のヘッジファンドについても、様々な噂が  
流れ、またヘッジファンドと金融取引がある銀行など金融機関に関しても「巨額損失」  
などの噂が絶えない

アメリカの景気の先行きに懸念を持たざるを得ないような統計も出てきた

世界各地の市場が「下げ」において共鳴していて、「下げ」が「下げ」を呼んでい  
る

米企業収益減少への見通し

など。アメリカの景気の先行きに関しては昨日、FED はアメリカの銀行貸し出し市場の  
引き締まりを報告している。

### 〈 critical G7 〉

週末に IMF 総会などと相前後して開かれる G7 は最近ではもっとも真剣な、実質的な討  
議を迫られるでしょう。週の最終取引（2日の取引）で株式相場は反発する可能性はある。  
しかし、今週末例え株価が反発したとしても、世界的な市場の動揺は続くでしょう。世界  
経済が複雑骨折の様相を呈してきたことから、どこから手を付けるかなど難しい問題が山  
積している。話し合いは真剣なものになると見られる。

この G7 を前にしてアメリカのルービン財務長官は今朝のウォール・ストリート・ジャー  
ナルに掲載された記事の中で、今の世界経済の混乱に関して

最近 20 年くらいの際に、世界の金融市場が劇的に変化したこと

一部開発途上国の金融システムに欠陥があったこと

貸し手、投資家に節度がかけていたこと

を挙げていた。 については、「変化」そのものを変えることはできないから問題とはな  
らない。問題となるのは、 と でしょう。ルービン長官は、今後の世界的な資金の流れ  
の円滑化に関して、キーワードを「透明性」としている。

透明性のないところに、「儲かりそうだ」と入ってきた資金の逃げ足は速い。透明性があ  
れば、資金は長く留まる傾向を持つのではないかというわけである。 に関しては哲学論  
争にまで発展しそうな問題で、後述する。

G7では、より具体的な問題として以下のようなポイントが取り上げられそうである。。

先進各国がそれぞれの国内でできることに関しては、国内事情だけでなく国際的意味合いも踏まえながら迅速に行動する

日米が金利引き下げを行ったように、インフレが当面起きそうもない環境の中では、各国が経済活動を活発化するための利下げを検討する

投資の資金の流れに何らかの枠組みを設けて、資金が円滑に流れるような仕組みを考える

などでしょう。今の世界には、今回のような世界的な金融市場の混乱の元凶となつたとされ、また自ら大きく傷ついたヘッジファンドのような投資機関を規制したら良いではないか、という意見がある。しかし、1日に議会で証言したグリーンスパン FED 議長は、ヘッジファンドを監督当局が直接監督することには反対の意向を示し、「銀行や証券会社を通じて」間接的に監視する方法が望ましいとの見方を表明した。これは伝統的なアメリカの「より自由に」という経済的思潮の流れを汲むものとみられ、この姿勢を少なくとも当面アメリカは崩さないだろう。

しかし、世界には異なった考え方を持つ向きがあることは、実際に資本の流れから自由を奪ったマレーシアという国があることを見れば明確だし、日本や欧州、それにアメリカ国内の一部にも「規制論」は根強くある。今回の G7 はこうした「哲学論争」を含みながらも、かなり緊迫したものになる可能性が強い。

しかし、一回の G7 で今の世界経済の不安定な状況が除去されるとはとうてい考えられず、世界経済、世界の市場の不安定な環境はしばらく続くだろう。G7 はまた、過度の通貨の変動には警告を発することになるだろう。過度の円安にも言及する可能性がある。

### 〈 have a nice weekend 〉

東京は明るい朝ですね。本当に久しく見なかった光景です。きらきらしている。ずっとさえない天気でしたから。週末はどうでしょうか。

週の半ばには金沢にお伺いしました。久しぶりでしたが、大勢の方にお目にかかれたのはよかったです。まあみなさん、この難しい状況の中で何をどうしたらよいか試行錯誤しておられると言う印象でした。

それでは、みなさまにはよい週末をお過ごしください。

<http://209.143.130.89/>

《当「ニュース」は、住信基礎研究所首席研究員の伊藤（ 03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com ）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容

は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》